様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月２２日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2006～2007
課題番号：１８５２０１９９
研究課題名（和文）　初期英国小説における「孤児」主人公と、18 世紀社会における「孤児問題」の研究
研究課題名（英文）　Orphanage and Orphan Heroes in the 18th Century English Novels

研究代表者
服部　典之（HATTORI　NORIYUKI）
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：５０１７２９３７

研究成果の概要：１８世紀英国において大きな社会問題であった「孤児問題」を、ロンドンの Foundling Hospital（孤児養育院）の流れを汲み現在も重要な慈善活動を行う Coram Foundation を調査し、１８世紀イギリス文化と孤児問題の繋がりを明らかにした。また同養育院が設立された 1745 年前後にはフィールディングの『トム・ジョーンズ』など数多くの孤児小説が出版され、これらの小説の孤児主人公の特徴と制度としての養育院を設立させるイギリス文化が密接な関係を持つことを実証した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	2,200,000	0	2,200,000
２００７年度	700,000	210,000	910,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,600,000	420,000	4,020,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
キーワード：英国初期小説、孤児小説、コーラム・ファウンデーション、孤児養育院

１．研究開始当初の背景

西洋史学や社会学では１８世紀イギリスの孤児問題が論じられることがあったが、英文学の分野で、イギリス初期小説と関連づけて議論されることは稀であった。この切実な問題は、イギリスにおける「孤児養育院」という制度に繋がり、さらには英文学の言説と大きな関係を持っているのではないかという発想を持った。実際に多くの孤児小説が養育院設立前後に出版されているにも拘わらず先行研究では充分な議論がなかった。

２．研究の目的

本研究の目的は、１８世紀英国において重大な社会問題であった「孤児問題」と、初期英国小説の中に多く描かれた「孤児」主人公を取り上げ、社会と文学の相互浸透の有り様を研究し、それらを代表する「孤児性」(bastardy)こそが、１８世紀英国文化の根幹を成していた意識を代表する概念であることを実証することであった。

３．研究の方法

（１）初期英国小説で、孤児の主人公を扱ったものを網羅的に収集し、分析を行った。

（２）「孤児養育院」を設立したキャプテン・コーラムの名を冠して、その精神を受け継いでいる慈善団体である「コーラム・ファウンデーション」を調査し、その活動と文学や芸術活動とが密接に絡んでいることを調べた。

（３）ヨーロッパでイギリスに先駆けて孤児養育院を設立したオランダのアムステルダムでの文献調査及び、養育院の施設を受け継いだ博物館などを調査することで、イギリスの制度への影響関係を実証した。

（４）イギリスの「孤児養育院」(Foundling Hospital)の影響下設立されたニューヨークの Foundling Hospital を調査した。慈善と文化の二側面から考察すると、ニューヨークの場合、問題があまりに大きく、慈善団体としても運営が極めて困難であることが判明した。

４．研究成果

（１）１８世紀の孤児小説を精密に解読し、それを勤務先である大阪大学の講義において発表したり、学会での研究発表、シンポジウムでその成果を公表するなどした。孤児小説の解読にあたっては、全国の研究者との意見交換を行い、その結果をも成果に盛り込むことができた。海外出張することで、イギリス・ロンドンの孤児養育院の調査、アメリカ合衆国の孤児養育院調査、オランダ・アムステルダムの孤児養育院資料の検討を行い、イギリス文化における孤児問題の重要性を確認することができた。孤児養育院は社会福祉を促進する面と、１８世紀における各種の制度改革の一環として行われた面があることが分かった。また孤児小説は、当時の「孤児」に纏わる言説の重要な表現形態であり、そこには複雑な力学が働いていることが分かった。

（２）最大の研究成果は２００８年3月３１日付けで単著『詐術としてのフィクション――デフォーとスモレット』(英宝社) を出版したことであった。この著書により、18 世紀英国小説を代表するダニエル・デフォーやトバイアス・スモレットの小説のほとんどが孤児問題と関係することが明らかになった。

（３）２００７年8月２０日に出版された『未分化の母体――十八世紀英文学論集』で、論文「遺棄された小説起源――バスタディとイギリス十八世紀小説」を発表した。この中で「遺棄を伴う私生児性」を申請者は「バスタディ」と定義した。孤児問題の「遺棄」という概念は主人公が遺棄された場合孤児となるが、さらにこの主人公が孤児であることを拒否して故国を遺棄した時、西インドや東インドへの航海者となることを実証した。

（４）日本英文学会第７９会全国大会シンポジア『空間表現の近代英文学――「旅立ちと「到着」の謎』で司会兼講師を務めた。その中での発表は「南方へ: “Keep still on SOUTHING” ――物語空間としての「南海」の発見」である。「孤児小説」が「冒険旅行小説」と密接に絡むことを認識した申請者が、両者の見地から行った、野心的研究発表である。

（５）２００７年１０月２０日に東京１８世紀イギリス文学・文化研究会第１０回大会において「性と交易の物語学――世界周航記と「不名誉な交渉」(Infamous Commerce)――」というタイトルで口頭発表を行った。交易と交渉という観点からイギリス 18 世紀の孤児小説であるフランシス・バーニーの『イヴリーナ』などを論じたものである。

（６）上記口頭発表を加筆訂正して、『英国小説研究』第２３冊に発表した。（英潮社、２００８年９月）。タイトルは「性と交易の物語学――世界周航記と「不名誉な交渉」（Infamous Commerce）――」である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 服部典之、「＜トラベリング・スコッツ＞――スモレットと「ユニオン」言説を巡って」、大阪大学院文学研究科・広域文化表現論講座成果報告書『テクストの読解と伝承』、査読無し、２００６年、ｐｐ．１６－２３

② 服部典之、「舌のないフライデー」、『八事』、査読無、２００７年、第２３号、ｐｐ．８２－８４

〔学会発表〕（計２件）

① 服部典之、「性と交易の物語学――世界周航記と「不名誉な交渉」（Infamous Commerce）――」、東京１８世、紀イギリス文学・文化研究会第１０回大会、２００７年１０月２０日、専修大学神田校舎

② 服部典之、「南方へ：“Keep still on SOUTHING” ――物語空間としての「南海」の発見」、日本英文学会第７９回全国大会シンポジア、２００７年５月１９日、慶應大学三田キャンパス

〔図書〕（計３件）

① 服部典之（共著）、英潮社フェニックス、『英国小説研究　第２３冊』、２００８年、ｐｐ．３４－５２

② 服部典之、英宝社、『詐術としてのフィクション――デフォーとスモレット』、２００８年、ｐｐ．３９５

③ 服部典之（共著）、英宝社、『未分化の母体――十八世紀英文学論集』、２００７年、ｐｐ．８０－９５

〔その他〕

［翻訳］

①服部典之、岩波書店、ゲオルゲ・フォルスター『世界周航記　上』、２００６年、ｐｐ．２３４

②服部典之、岩波書店、ゲオルゲ・フォルスター『世界周航記　下』、２００７年、ｐｐ．５０９

［書評］

①服部典之、「スコットランド文化事典」、『英語青年』、研究社、第１５２巻第１２号、２００７年、ｐｐ．７５２－７５３

②服部典之、John Richetti, *The Life of Daniel Defoe* (Oxford: Blackwell Publishing, ２００５)、『英文学研究』、研究社、Vol.LXXXIV、２００７年、ｐｐ．２０７－２１１

６．研究組織

(1)研究代表者
服部 典之　(HATTORI NORIYUKI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：５０１７２９３７

(2)研究分担者
玉井 アキラ　　(TAMAI AKIRA)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：００００７９０９７

(3)連携研究者
　　なし